



日本基督教団熊本草葉町教会牧師
 熊本YMCA常議員 リソース推進委員 森嶋 道 さん

最後まで悩んだ牧師への道

上通アーケードの横道を進んだところにとたずむモダンな建物。大きな十字架が印象的な日本基督教団熊本草葉町教会で牧師を務めるのが森嶋道さんです。「父は大阪の下町にある単立教会の牧師で、礼拝のある日曜日は子どもの私も遊びに行けないし、我が家の場合はお寺や神社にも入ってはいけないと言われていました」。友人とは異なる家庭環境に不満を感じることもあったものの、少年時代の森嶋さんにとって教会は「安心できる場所」であったと言います。「教会員のおばあちゃん、おじいちゃんたちがよく面倒をみてくれました。おっちょこちょいな母が私を置いたまま家に帰ってしまって『お母さん、大きな忘れ物がありますよ』と連絡してくれたこともありましたね」。

高校卒業後、森嶋さんは神学校に進学。父親の教会を手伝うようになりますが、卒業後に一般企業などに就職をするのか牧師の道に進むのか「最後まで悩んだ」と語ります。「我が家は貧しくて、例えばおもちゃは『おもちゃ屋さんで遊んで帰るもの』であり、『チラシを見て楽しむもの』という生活。牧師になって経済的にやっていけるのかという不安がありました」。一方で大学院生時代にキリスト教主義の学校の非常勤講師のアルバイトをはじめると、想像以上の給料をもらえたことに衝撃を受けたと言います。「教会の支え方は様々。就職して、良い信徒となって献金をする方法もある。それでも最終的に牧師の道を選んだのは、子どもの頃に教会でお世話になった方たちに恩返しをしたい、父を手助けしたいという想いがあったのかもしれない」と振り返ります。

神とつながり、人とつながる

YMCAで感じる熱い思い

森嶋さんがYMCAの活動に深く関わるようになったのは、5年前に熊本に赴任してからのこと。「熊本YMCAの活動は幅広くて日本語学校や幼稚園もあり、地域と密接に結びついていることを知りました」。

熊本の青年たちがキリスト教の教えを全国に宣布しようと1876年に誓約し、日本のプロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟を記念して毎年1月に開催される「早天祈祷会」。熊本YMCAが実行委員会の事務局を務め、森嶋さんは委員長を担っています。「私がはじめて実行委員長になったのはコロナ禍の時でした」。花岡山を会場に毎年200名～300名が参加していた祈祷会。「今年は開催できないかもしれないと思っていたら、YMCAの職員は『やらないという選択肢はない』というんです」。その結果、花岡山からのライブ配信という形で実現。「YMCAの人たちは熱意がすごいと感じました」と森嶋さんは語ります。

その熱意は災害時にも感じているそう。「大変な時に、大変な人たちのところに行って支援活動をされる姿を見て熱い思いを感じています。熊本YMCAは『熊本の人たちが必要としているものを提供しよう』という思いで、熊本とともに生きてくれたのだと感じています」。



2021年1月 熊本バンド結盟記念早天祈祷会

「一人にしない」。クリスマスの願い

森嶋さんが牧師として大切にしていることを尋ねました。「礼拝では、『つながりを感じてほしい』と思っています。神様とのつながりも、一緒に礼拝に参加している方とのつながりも大切。誰にも相談できない環境は人を追い詰めてしまう。何か問題があった時に一人で悩む人が生まれないように願っています。『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい』という聖句があるように、教会は一緒に気持ちを分け合う場所でありたいですね」。

そして、そのつながりの大切さを強く感じるのがクリスマスなのだと言います。「イエス・キリストが生まれた日、というのは当然なのですが、一人の赤ちゃんが生まれるということは、お母さんとお父さんという新たな存在も生まれ、すでに子どもがいる家庭であれば、お兄ちゃん、お姉ちゃんが生まれるということ。ただ血縁の家族だけでなく、人は誰かとつながることによって成長していく、それも自分より小さな者とつながることによって成長していくということがクリスマスのテーマの一つではないでしょうか。ですから、家族や人とのつながりを大切にしたい。クリスマスは一人でいてはいけないし、どのような人も一人にしてはいけない日であるように思います」と森嶋さん。「一人で過ごしている人も、ここに来ませんか？一緒に礼拝をしませんか？食事を共にしませんか？というも以上に声をかけたくるのが僕にとってのクリスマスです。教会自体がひとつの家族のようにつながり、様々な人を迎えていきたいです」。

Pickup

水前寺幼稚園
 ぶどうの木体育英語幼児園
 熊本五福幼稚園が合同で
 スポーツフェスタ



YMCA学院日本語科留学生が着物体験 第56回前進祭



晩秋のサイクリングツアー2024

Information

行こう 見よう 深めよう

熊本バンド
結盟149周年記念行事を開催

熊本洋学校で教師ジェーンズの薫陶を受け、花岡山でキリスト教を奉じ、この教えを日本全国に宣布しようと結盟し、その後「熊本バンド」と呼ばれた青年たち。日本におけるキリスト教プロテスタントの源流の一つとなった「熊本バンド」の結盟149周年を記念して、早天祈祷会を開催します。

日 2025年1月30日(木) 6:30～7:30

場 花岡山山頂 熊本バンド奉教之碑前

奨励「熊本バンドに続く者」としての誇りと祈りを胸に

奨励者 光永尚生さん

熊本YMCA総主事
学校法人九州ルーテル学院
院長・理事・評議員



※早天祈祷会はYouTubeでLIVE配信をします。LIVE配信・献金方法の詳細は、熊本YMCAのWebサイトでご確認ください。

問 熊本YMCA本部事務局 Tel 096-353-6397



キリスト教
×
祈祷会

フェアトレードを推進

企業と企業人の社会貢献に取り組む「YMCAフィランソロピー協会」は開発途上国の生産者をサポートする「フェアトレード」の推進に取り組んでいます。今年もチョコレートなどのフェアトレード商品を販売します。

日 2025年2月頃まで

場 YMCA本館／グローバルコミュニティセンター

問 YMCAフィランソロピー協会事務局

Tel 096-353-6397



国際協力
×
チョコレート

YMCA年末募金

「子ども、若者、国際協力」をテーマに1月末まで取り組んでいるYMCA年末募金は11月23日(土)時点で3,067,755円の尊いご協力をいただいています。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



YMCAは子どもたちのチャレンジを応援します

ウィンターキャンプ

日帰り4日間

冬のわくわくデイキャンプ

1泊2日

キッズチャレンジキャンプ

2泊3日

冬遊び満載！
3日間のスペシャルキャンプ

1泊2日

五ヶ瀬1泊エンジョイスキー 満席

4泊5日

北海道ダイナミックスキー



キッズチャレンジキャンプではボルダリングに挑戦！

ウィンターキャンプ&冬休みプログラム

冬休みプログラム

みなみグローバルコミュニティセンター(熊本市南区田迎)

■体操、水泳、特別プライベートレッスン ■冬休みのお預かりスクール

ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南)

■体操、水泳、ジュニアコンビネーション(体操・水泳)、スキルアップサッカー、特別プライベートレッスン ■冬休みのお預かりスクール

むさしグローバルコミュニティセンター(合志市幾久富)

■スポーツアドベンチャー①②③

※いろいろなスポーツにチャレンジできる終日お預かりプログラム

東部グローバルコミュニティプラザ(熊本市中央区帯山)

■3日間のプログラミングスクール ■冬休みのお預かりスクール



詳細はWebで▼



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 条 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

COM・PASSION II

おもいやりとやさしさ Vol.33

総主事 光永 尚生

Vol.33



リーダーシップ養成へのアプローチ

リーダーシップという言葉は、「影響力」という意味としても捉えられています。リーダーシップ養成とは何か、時として考えさせられるものです。全国のYMCAは、様々な専門的な研修を全国規模、地域レベル、各事業部法人レベルで実施してきました。多くの場合は法令順守のためのものであり、仕組みの中で発生する課題解決のための研修でもあります。しかしながら、現

代的な課題解決や、VUCAと呼ばれる不確実性の時代の中でどのようなリーダーシップを発揮すべきか、解決が困難なものがあることも事実です。

その中で、「日本YMCAスタッフ研修ステップII」という全国YMCAの研修が今も続けられています。今年も全国のYMCAから15名が参加し、静岡県御殿場市と東京都渋谷区内のオリンピック記念センターで65日間の研修を共に受講しています。熊本YMCAからも2名のスタッフを派遣いたしました。

YMCAで大切にしているものの一つに、「クリスチャンリーダーシップ」というものがあります。キリスト教の信仰を持っている人はもちろんですが、「キリスト教の精神を涵養する」ための働きが求められている所以です。私たちの

YMCAは、Young Men's Christian Association(キリスト教青年会)と訳されてきましたが、一方で、YMCAは、You Must Come Again(いつか帰ってくる居場所)とも考えることができます。世代を超えたリーダーシップの涵養は、65日「同じ釜の飯を食う」という昭和的な関係性のマネジメントの中にも、脈々と生きているわけです。この旧くて、新しいYMCAの働きこそ、不確実性の時代を切り開き、日本国内はもちろんのこと、世界の仲間と共に「平和な世界」を創造できる、平和への扉を拓く働きにつながると真剣に考えているところです。

今年のクリスマスが、平和な時と共に訪れることを心より祈っています。

R | E | P | O | R | T

語学

宇宙と地球がテーマ 子どもたちが英語でキャンプ



グローバル事業部 出口夏実

YMCAこども英会話スクールでは英語講師と一緒に楽しむキャンプを毎年テーマを変えながら開催しています。今年は宇宙や地球をテーマに、10月12日(土)、13日(日)の1泊2日で「Star kids English camp」を実施。16名の子どもたちが参加しました。

1日目の目的地は佐賀県立宇宙科学館「ゆめぎんが」。宇宙発見ゾーン、地球発見ゾーン、佐賀発見ゾーンがあり、グループに分かれていろいろな体

験・発見をしました。中でも人気の「グラヴィティジャンプ」での惑星の重力体験は、とても楽しかったようです。宿泊場所は「リフレスおおむた」でした。夕食は地元の皆さんの手作りご飯。食事の片付けや寝床の準備をみんなと協力し、一夜を過ごしました。2日目の朝食は、おにぎりバイキング。各自好きな具材を取り、自分で作ったおにぎりを頬張りました。2日目は大牟田市動物園で様々な動物とふれあいました。

あっという間の2日間。笑いあり、成長ありの2日間でした。また再会できる日を楽しみに。



国際

日本と韓国の盲学校生徒 熊本で国際交流



熊本YMCA学院 吉田万貴

視覚に障がいを持つ青少年に国際交流の場を提供することを目的に開催する日韓青少年交流プログラムが第36回を迎えました。

昨年は熊本県立盲学校、ユース、熊本ワイズメンズクラブ、YMCA職員合わせて10名が韓国大邱を訪問。この活動が大邱光明学校生徒らの保護者から大反響をうけ、今年は大邱光明学校の生徒が修学旅行として10月22日(火)～25日(金)に熊本を訪問することに。大邱光明学校の生徒、教師、新大邱ワ

イズメンズクラブ、大邱YMCA職員ら総勢32名が熊本を訪れ、修学旅行内の24日(木)に熊本県立盲学校との交流を行いました。

音楽交流では、熊本県立盲学校アンサンブル部が迫力のある演奏を披露し、続いて大邱光明学校の生徒らが発表。ヴァイオリンアンサンブルがジブリ映画の曲のメドレーやBTSの曲などを演奏しました。合唱では熊本の生徒も参加し、映画「となりのトトロ」の「さんぽ」を相手の国の歌詞で歌って交わりました。フィナーレはサンバおてもやんを輪になって踊り、会場は大いに盛り上がりました。



平和

熊本と韓国大邱のYMCAが交流 役員協議会



むさしグローバルコミュニティセンター 辻健太郎

熊本YMCAと韓国大邱YMCAの交流は1960年代の高校生交流から始まり、現在もユースによる交流や職員研修、役員による交流などを続けています。10月26日(土)には、今年で30回目となる役員協議会を本館／グローバルコミュニティセンターで開催し、大邱YMCAから9名が来熊しました。

協議のテーマは「Vision2030 Just World 達成のためのユースアクション」とし、広島YMCA国際青少

年平和セミナーに参加したユースが発題。セミナーで平和についての学びを深め、グローバルな仲間との関係性を築いたことを述べ、「友だちがいる国とは絶対に戦争はしない」というメッセージを投げかけました。大邱YMCAからは理事長のイチュンギさんが発題し、平和で公正な世界を実現するためには、ユースに正しい知識を持ってもらうための経験が必要であることを述べました。その後の意見交換で、両YMCAとの交流を通してさらなる相互理解をはかり、多様性を深く理解しながら、国際親善を発展させていくことが話されました。



災害支援

専門学校生らが支援活動 能登半島豪雨災害



熊本YMCA学院 加藤泰文

全国のYMCAは能登半島で1月に発生した地震や9月の豪雨災害を受け、現地での支援活動を続けています。10月25日(金)～10月28日(月)には熊本YMCA学院の学生6名と熊本YMCA職員2名が災害支援ボランティアとして輪島市を訪れました。

富山YMCAで現地の状況や活動内容のレクチャーを受け、輪島市町野町へ。学生たちは色濃く残る災害の爪痕に、驚きながらも土砂の処理や清

掃などに携わりました。

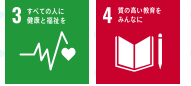
建築科2年に在籍する富田峻介さんは「今まで当たり前に住んでいた家が壊れたりすることがどれだけ辛いことなのかを感じた。将来、よりお客様が安心して住めるような建物をつくりたいと思った」、健康スポーツ科1年生の中竹優俐葉さんは「自分ひとりではなく、学校の先輩方や他県のYMCAの方々、地元や他の地域からもボランティアとして来ている人がいることが、今回の活動を頑張ろうと勇気づけられる原動力になった」と感想を寄せました。



YMCAスポーツフェスティバル

今年も子どもたちが日ごろの練習の成果を発表するスポーツフェスティバルを開催しました。

11月24日(日)開催の体操フェスティバルは次号以降でご報告します。



スイミングフェスティバル

日 10月20日(日) 場 みなみグローバルコミュニティセンター



子どもスポーツ
スクールについて

サッカーフェスティバル

日 11月10日(日) 場 益城町総合運動公園



福田稠さんと中村陽志さんが受章



福田 稠さん



中村 陽志さん

本館／GCC運営委員の福田稠さんが秋の叙勲で旭日小綬章を、みなみGCC運営委員の中村陽志さんが秋の褒章で藍綬褒章を受章されました。おめでとうございます。

熊本YMCA学院学生が九州大会で入賞



熊本YMCA学院の川崎凌英さん、野口煉さんが、11月15日(金)に開催された第43回九州ブロック専門学校体育大会のソフトテニス男子の部、3位入賞を果たしました。

わたしと聖句



日本福音ルーテル神水教会

角本 浩

詩編37編23節

主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。

一步一步

私は水泳が嫌いでした。子供の頃、体育の授業で水泳が始まると、憂鬱な気持ちになりました。コースに並ばされて、25メートル先のところまで泳がされる。「あんな先まで行けるわけがない」と最初からあきらめていますから、よく途中で足をついていました。その頃にYMCAと出会っていたら、よいご指導を受けることができたでしょう。

大人になって、昔スイミングスクールに通ってたくさん泳いでいた、という人とおしゃべりしました。「どうして、何百メートルだの、千メートルだの泳げるの? 同じ人間と思えないよ」と言いましたら、その人はこう言いました。「何メートル泳ごうとか、何百メートル泳ごうとか、そういうことは考えないで、あとひとかき、もうだめだと思った時、あとひとかき、もうひとかき是可以る、と言いつつ聞かせながら、手を前に出した」と。目からうろこが落ちるような気がいたしました。「今なら、俺も泳げるかもしれない」と思えたりしました。出っ張ったおなかを見れば、絶対無理なのですけれども。

主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。

「主は人の人生を定め」ではなく、「一步一步を定め」とあるところが素敵だと思います。そしてこれは、私たちの一步一步を、主と一緒に歩いてくださる約束としても受け取ることができます。どんな時も、あなたの一步一步を主は見守り、一緒に歩いてくださいます。

熊本YMCAの皆さまの日々、その一步一步が、祝福されますように。

次号は1・2月合併号として、1月上旬に発行予定です。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)
発行人／光永 尚生 編集人／大塚 永幸
定価60円 購読料は会費を含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



Facebook

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2024年度基本聖句

マタイによる福音書 5章16節
あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。